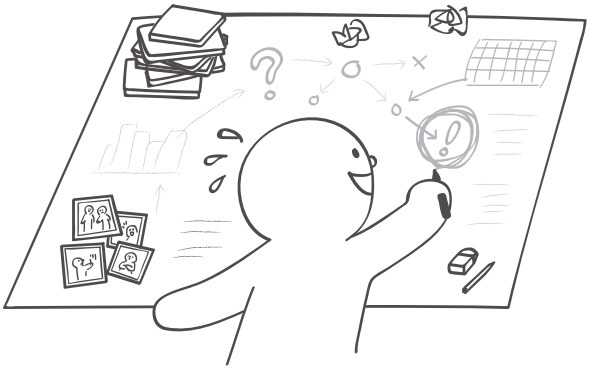
探究を始めよう

探究は、自分の「知りたい !」という気持ちをエンジンにして、自分で道を切り開いていく冒険のようなものです。ただ「やらなきゃいけないから」ではなく、自分が本当に知りたいことを見つけることが思いのほか大切です。知りたい気持ちがエンジンとなると、ぐんぐん進む楽しさを味わえ、悩みや失敗さえも楽しさを感じることができるのです。

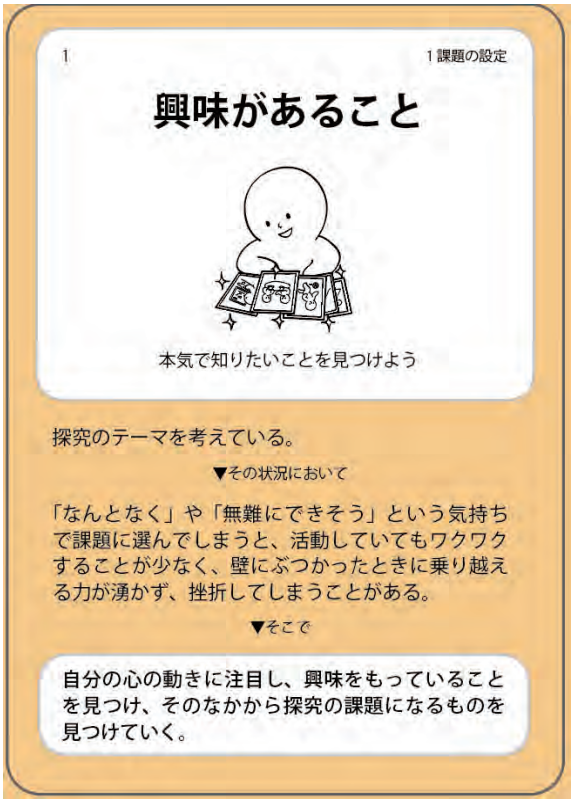
また、今の自分より少し上を目指して挑戦すると、新しい自分に出会えます。「これ、ちょっと難しそうだけどやってみたい !」そんな気持ちで目標を決めてみましょう。さらに大切なのは、「これが自分にとってどんな意味を持つのか」を考えること。この経験が将来どんな力になるかという意義を自分で見つけると、探究は「やらされているもの」ではなく「自分のもの」になります。

探究は「調べる」「発表する」ではなく、「未知のものを解き明かす経験をする」という特別な冒険です。そしてそれは大人になっても役にたつ、とても大切な経験となります。そのためにも、まずは楽しめる課題の設定にこだわってみましょう。



思ったこと、話し合った中で心に残ったことを書き込みましょう。

課題の設定　興味があること



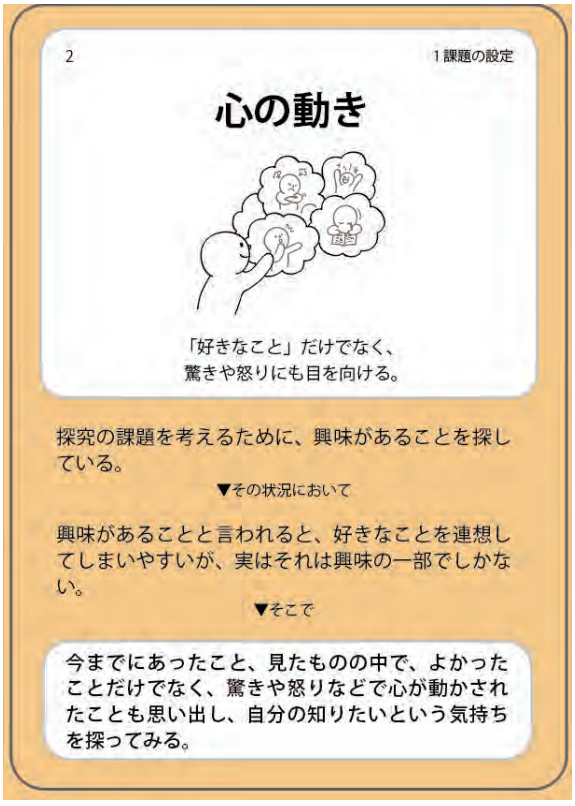
＼やってみよう／

- テーマへの強い興味や、知りたいという意志が探究を続ける上で大切だという理解の上で課題を探し始める
- 探究カードの「課題の設定」に関するカードやサブカードを使いながら、自分の興味に目を向ける
- 友達や保護者などと話すなかで、自分の考えが見えてくることもよくあります

思ったこと、話し合った中で心に残ったことを書き込みましょう。



課題の設定　心の動き



＼やってみよう／

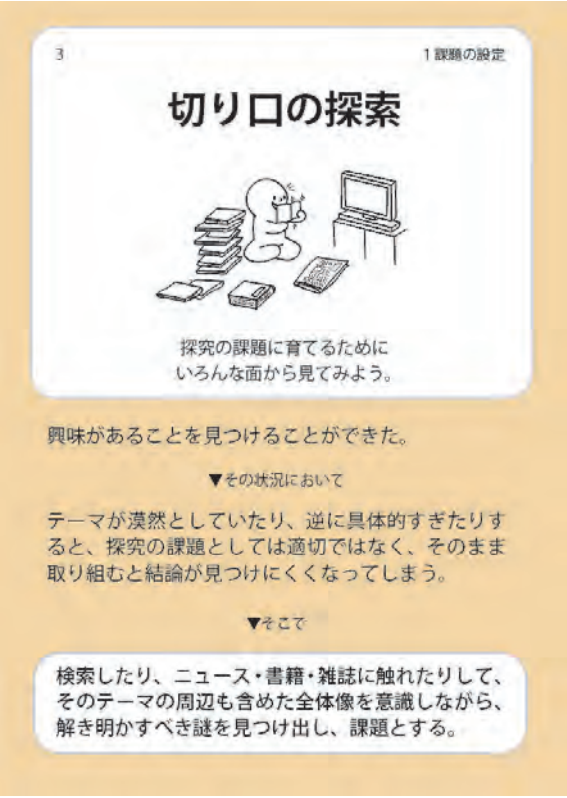
- 感情の動きは興味のシグナルであることを意識してみる
- 「すごい！」「嫌だった」などと感じた出来事を思い出して、自分がどんなこと に愛・怒り・喜び・驚き・心の痛みなどをもつのか感じてみる
- 先輩や友達の探究を見て心が動くものがあれば、そのどこが好きなのかを考える
- 心の動きをいくつかつかむことができたら、なぜ自分はそれらに感情が刺激されるのかを考えてみる

サブカード ～考えるヒント～

好きなこと	不思議なこと	嬉しかったこと	楽しいと思うこと
憧れること	嫌なこと	ずっとやり続けられること	これがあればもっと便利では
世の中からなくしたいこと			

思ったこと、話し合った中で心に残ったことを書き込みましょう。

課題の設定　切り口の探索



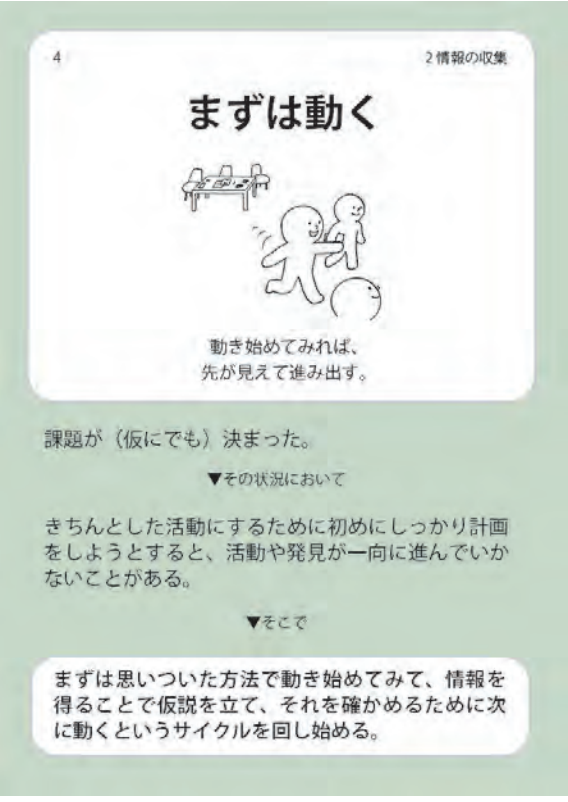
＼やってみよう／

- テーマが漠然としているときは、その中の何に興味があるかを考える。例えば「サッカー」だけではなく「試合を観る」「サッカーの戦略を知る」など、動詞まで考えてみると見えてくることがある
- テーマが具体的すぎるときは、少し広い目で抽象的に捉えてみる
- それらは、サブカードにある機会を使いながら考えてみるとよい

サブカード ～考えるヒント～

キーワード検索	画像検索	専門誌・関連書籍	図書館散歩
世の中の意見	周りの大人の意見	片隅に置いて過ごす	通学路や町で目に入るもの
よく行く店	家の中	自分なりの面白ポイント	無理がないか

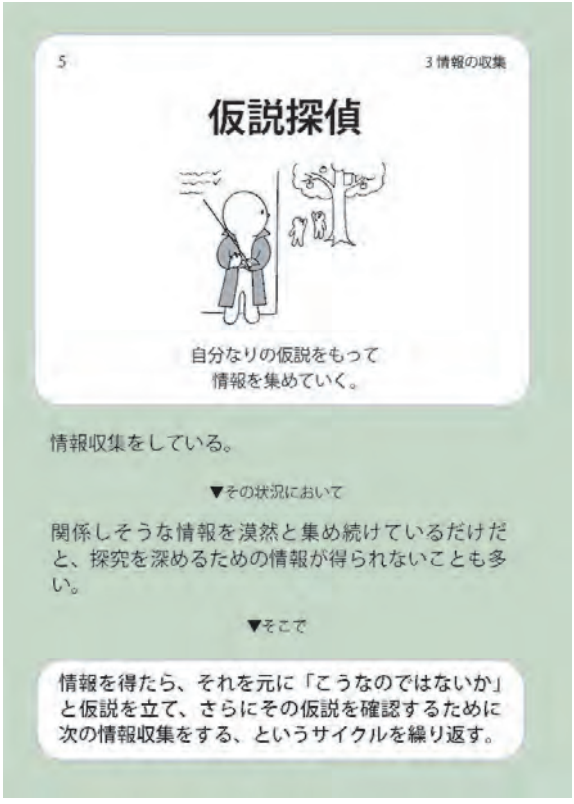
情報の収集　まずは動く



＼やってみよう／

- フィールドワークに出る、検索してみる、ある程度の量の本を読んでみるなど、やってみようと思えるものからまず動いてみる
- まず動くと、先の広がりが見えてくる。そうしたらそこで感じた疑問や興味から次の行動を立ててみる
- 完全に無計画ではなく、大まかな計画の中での機動力を大切にする

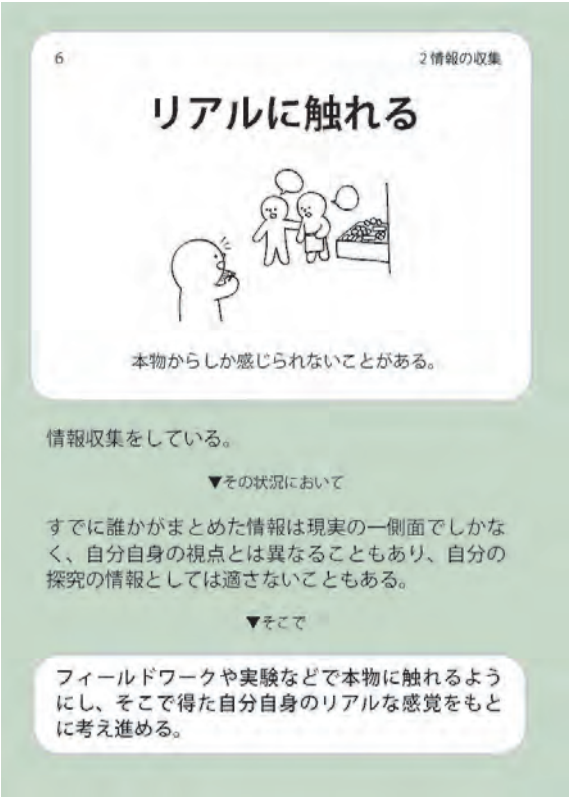
情報の収集　仮説探偵



＼やってみよう／

- 「これを知りたい」と思ったことに対して「こういうことなのではないか」と想像し、それを自分の立てた「仮説」としてみる。
- そして、その仮説が合っているか、違うのかを確かめるために、仮説の成否を確認できそうな情報源にあたり、調べていく
- 仮説と違うことがわかったら、どこがどのように違ったのかを考え，新たな考え（仮説）に発展させ、検証することを続けていく

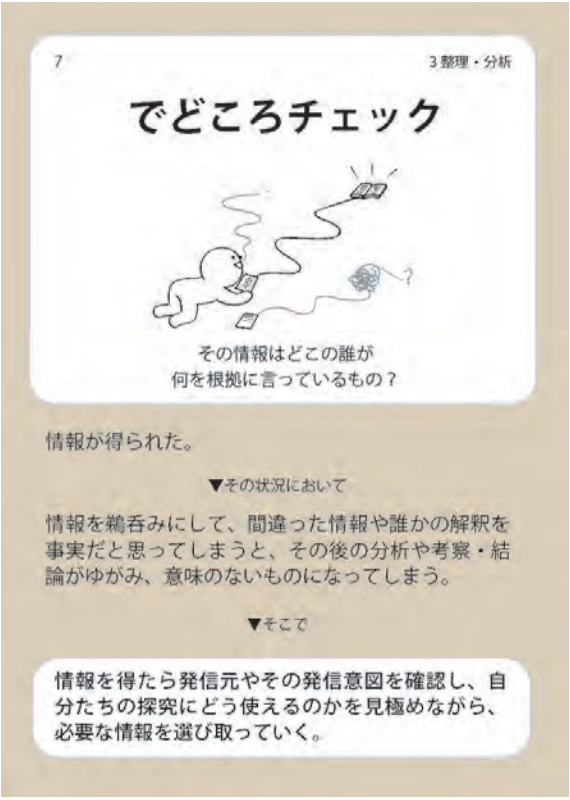
情報の収集　リアルに触れる



＼やってみよう／

- 関連する場所に行ったり、人に会ったりするなどのフィールドワークをする。実験ができるテーマであれば自分で実験してみるとよいだろう
- その際、単に動くだけではなく《仮説探偵》であることを意識して，仮説に対しての事実を確認していく
- 仮説以外のことに出会ったら、それらも大切に受け止め、新しい仮説や発想の糧にしていく

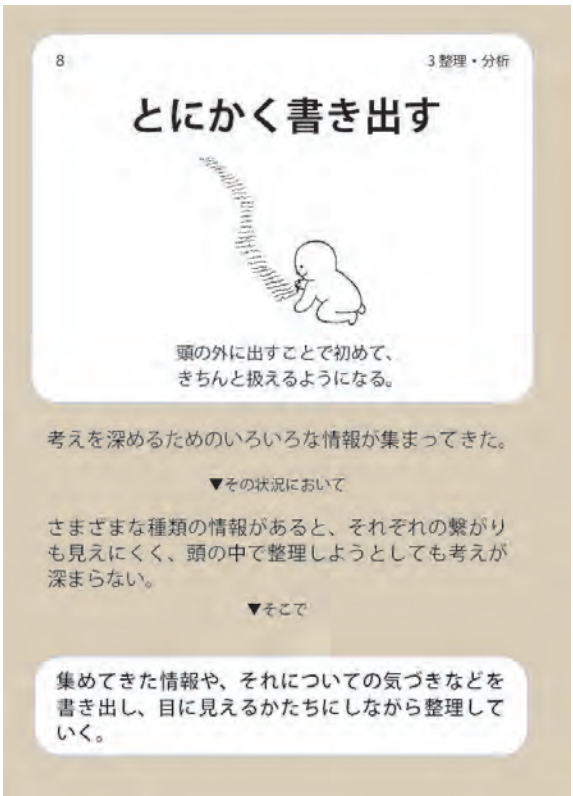
整理・分析　でどころチェック



＼やってみよう／

- 今、何の目的でどういう情報を探しているのかを意識し、それに適したものにアクセスするように心がける
- 情報を参照する際には，常に出典と、その出典の特徴を確認するようにする
- 誰かが編集した情報を引用する際には、孫引き（引用の引用）を用いるのではなくオリジナルの文献にあたるようにする

整理・分析　とにかく書き出す



＼やってみよう／

- わかったことや考えている過程のモヤモヤしたことも、どんどんノートなどに書き出してみる。その際、一冊のノートにまとめて書き出すようにし、自分の考えを一元管理するとよいだろう
- PC やタブレットもよいが、両方試してみると、手書きとの向き不向きが見えてくる
- 言葉にしにくい場合は、図や物をつくったりして頭の中を可視化してみることもおすすめ

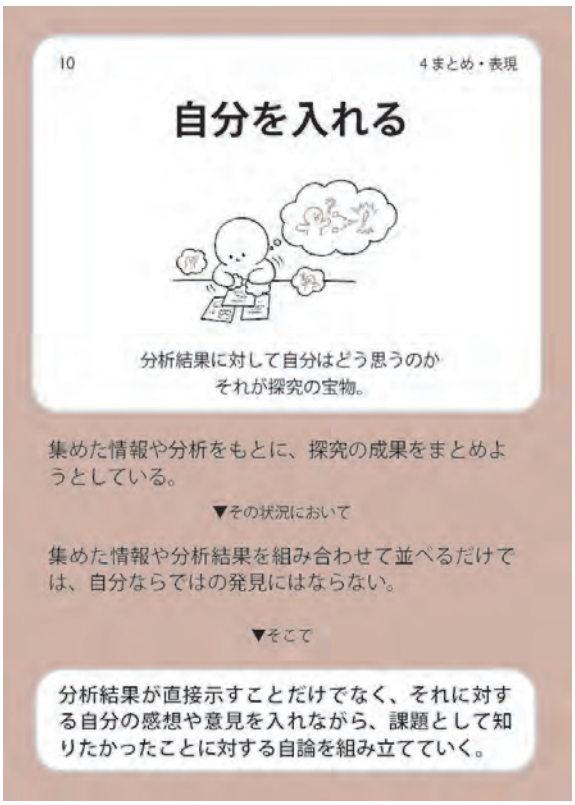
整理・分析　周辺サーチ



＼やってみよう／

- フィールドワークや実験などでは、もしかすると関係があるのではないかと思われる範囲まで目を広げてみる
- 仮説に関する情報が集まる場所に飛び込んでみると、どのような情報があるのかが多面的に見えてくる
- 特に《リアルに触れる》と、自分がもっていた仮説以外の情報が自然と入ってきやすいだろう。

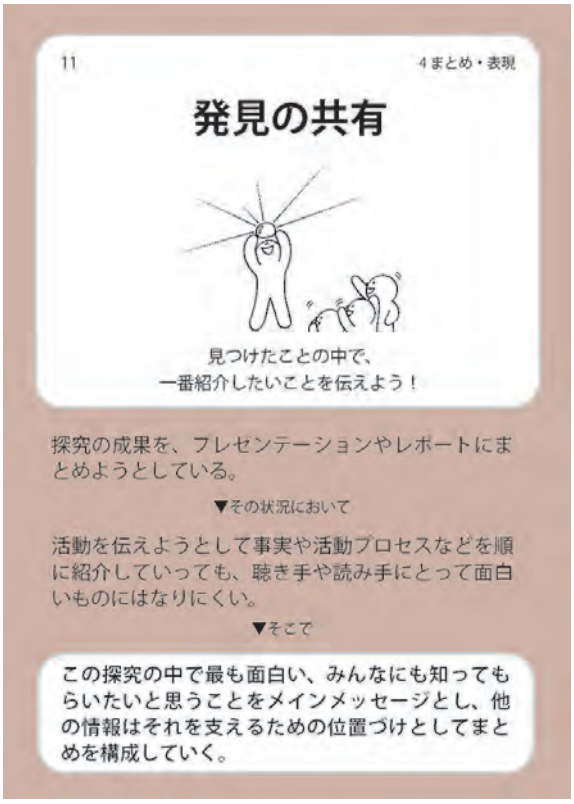
まとめ・発表　自分を入れる



＼やってみよう／

- 分析してきて見えてきたことに対して「それはなぜか」「そこから何が言えるか」「それは何を意味するのか」など、自分なりに意味を考えていく
- 事実から離れて自分の意見を主張することのないように注意しながらも、その結果の意味することや、そこから自分が感じたことを加えていく
- その際、客観的結果と自分の解釈・考察をわけ、意識して事実と意見を捉えるようにする

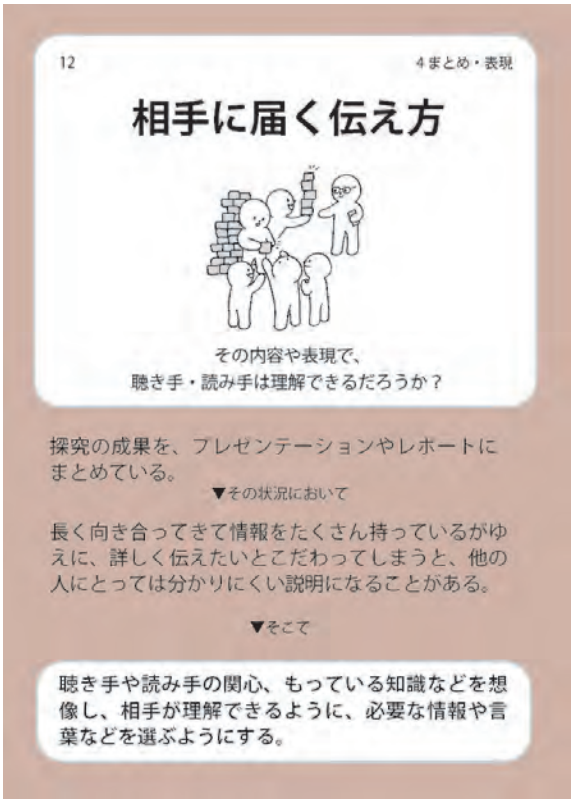
まとめ・発表　発見の共有



＼やってみよう／

- 探究はナゾを「解き明かしていく」ことであるため、まとめの中心は、ナゾに対する発見であることを理解する
- 一番大きな発見だと思うことや、自分がもっともおもしろいと思ったことをメインメッセージとして、それを伝えるために必要な情報や説明を添えていくようにする
- 発表の持ち時間が足りないときは、結論を伝えるために不要なことは思い切って省くことも考える

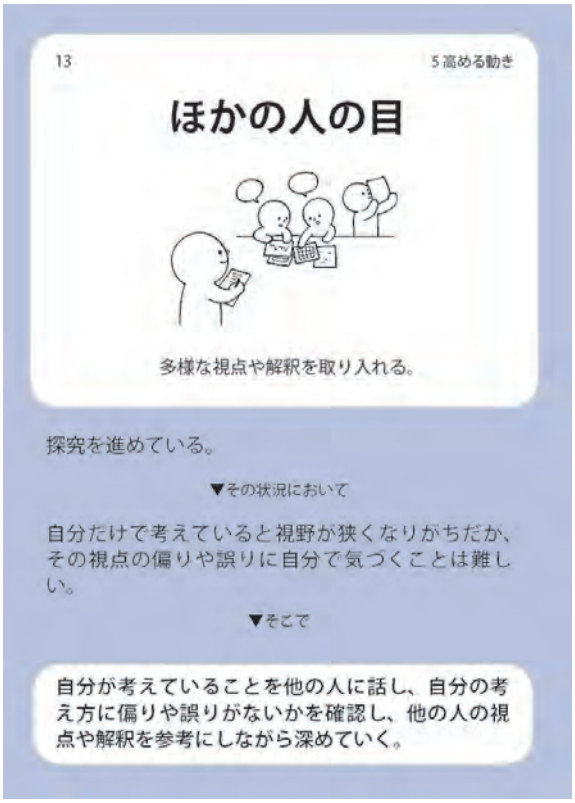
まとめ・発表　相手に届く伝え方



＼やってみよう／

- 聴き手や読み手がどのような人たちで、何を知りたいのか、どういった知識があるのかなどを意識する
- そして、その人たちと《発見の共有》をするためには、どのような構成や言葉で伝えるべきか、周辺の情報は何が必要かを考える
- 持ち時間も意識し、絶対に必要な情報ではないものは、質問を受けたり相手の理解度に合わせて提示したりするのもよい

高める動き　ほかの人の目



＼やってみよう／

- 考えがまとまってきたり、分析結果が見えてきたら、友達や先生、保護者、先輩などに話してみる。その際には、すべての情報を伝えることは難しいので、重要だと思う点や迷っていること、意見がほしいことを中心に話してみるとよい

- その際、質問に答えたり、足りなかった情報を補足したりしながら、話を深め、他の人の意見も取り入れる

- 分析や調査結果に関するチーム内での意見交換も積極的に行うとよい

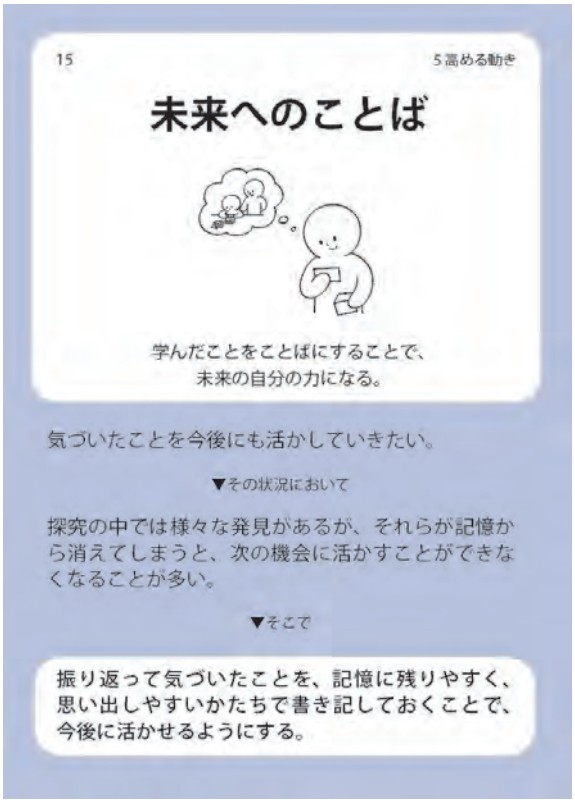
高める動き　次のサイクル



＼やってみよう／

- 探究の過程では、どんなときにも自分の考えが正しいと思い込まず、考えや見えることは変わっていくものであると思うようにする
- 予想外の事実が見えたときには，自分の考えがどう違ったかを突き詰めて考え、考えを発展させることを楽しむくらいの気持ちをもつ
- それ以上突き詰める時間が取れないときは、仮説が成り立たなかった理由を考え、それを探究活動の結論とすると発展的に次につながる

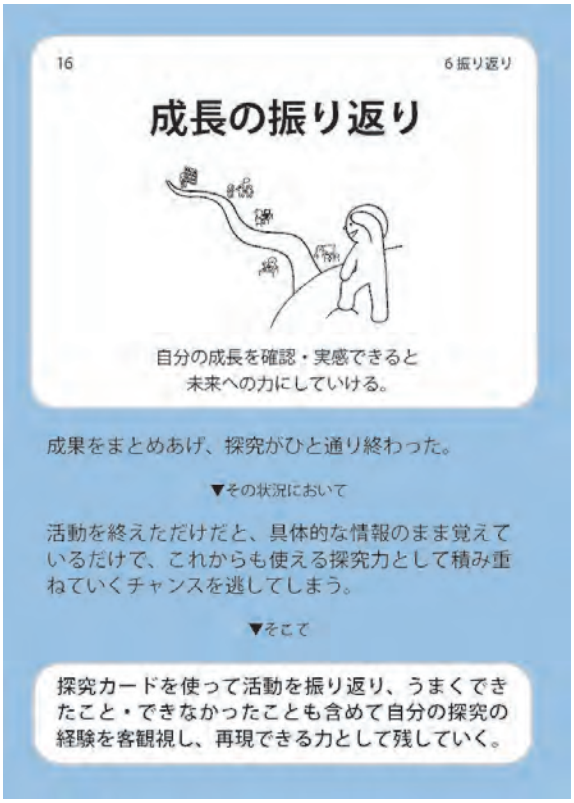
高める動き　未来へのことば



＼やってみよう／

- 気づきや学びがあり、今後の探究活動や人生にとって重要だと思うことは、意識して残し、活動の中でも思い出しながら進めるようにする
- それらは、将来思い出したり深め続けられたりするようなかたちで、探究活動そのものとは別にまとめるようにする
- 例えば「探究パターンカード」のような形式で気づきを書いて、それに「名前」をつけると、必要な機会に思い出しやすくなる

高める動き　成長の振り返り



＼やってみよう／

- 活動の中での自分の行動や起こったことを振り返ってみる。その際「探究パターンカード」を使って，どのコツを実践していたかを考え、自分のしたこととコツの名前をセットで記録していくと、探究の本質に沿った理解ができる

- 工夫してうまくいったことや、失敗したことなども、その理由を考えてみる。探究することだけでなく、探究活動を客観視することも大切だと意識し、成功も失敗もすべて学びの糧にしながら、次にうまくできるように記憶、記録に残し、力にする

気づきを残そう

探究をしていると、調べ方、気づき方、考え方などについて新たな自分だけの発見があったのではないでしょうか？　それは、今後も使える「かたち」にしておくことで、生涯使える自分の力にしていくことができます。

この「探究パターンカード」のように、「どういうときに」「どうしたらいいのか」をまとめ、その考え方に「名前」をつけておくと、自分の経験を「今後も使える知恵」に変えることができます。そのために、経験を整理してひとつの「知恵」としてカタチにするためのワークシートをつくりました。ぜひ自分だけの「コツ」を書いてみてください。

書いてみる際には、具体的なエピソードから少し抽象度をあげて書くと、今後、より多くのシーンで使える知恵となっていきます。固有名詞を一般名詞に置き換えてみたり、他に似た経験があれば両方に共通する書き方にしてみるなどすると、抽象化することができます。できる範囲で取り組んでみましょう。

経験を「コツ」として書くためのワークシートはこちら！
https://creativeshift.co.jp/download/ws_simplicity/